昭和三五会

卒業 55 周年記念大会

日時　11 月 20 日（金）12 時～14 時

場所　如水会館　スターホール

出席　192 名

Ｌ組 18 名、M組 16 名、N組 12 名、P組 27 名、Q組 19 名、R組 20 名、S組 23 名、T組 19 名、U組 23 名、W組 15 名　（内夫人 29 名。　その内８名は招待の遺族）

同期の仲間が５年ぶりに如水会館に集う。　懐かしい顔に接すると小平前期の階段教室、代返、一橋寮、多摩湖線、クラブ活動、恋など、眩しかった青春が蘇ってくる。

開会２０分前にオープンしウエルカム・ドリンクで喉を潤す。　スターホールが一段と賑やかになり「よぉ～久しぶり！」「やぁ～元気か？」などの声が飛び交い歓談が始まった。２９名の夫人の参加で会場はとても華やいで見えた。

定刻１２時となり杉山守 (P) の司会で開会が告げられ、卒業５５周年記念大会がスタートした。今回の開催に際し資料作りなどで大変ご苦労を頂いた石井暉雄君（L)、如水会のレディ匹田さん、土井さんのお二人、更にお世話になった如水会館の山口支配人代理の４方に感謝を込めて一同から拍手を送った。　また、如水会と新三木会からご芳志を頂いたことが報告された。

今大会の実行委員長の予定であった白石武夫君（P）が５月に逝去されたので急遽、臨時幹事会を開き、今後の対応として歴代実行委員長による「共同実行委員長体制」で臨むことが決定されており、２３周年＆５０周年委員長・茂木七左衛門君（W)、３０周年・岩松良彦君（L)、３５周年・近藤克彦君（N)、４５周年・植松修三君（L）の４名が紹介され、壇上に勢揃いした。（写真参照）　尚、４０周年の委員長は２００４年に惜しまれて亡くなられた岸田登君 (M) である。

続いて物故者追悼の時間となり、壇上より近藤共同実行委員長から卒業以来の物故者が１３９名、その内前回大会以降の物故者が３９名となり、４人に一人が鬼籍に入ったとの報告があった。

近藤委員長が「この世とあの世　頼りは如水の仲間かな」という川柳を披露した後、一同万感の思いを込めて故人に黙祷を捧げた。

茂木実行委員会代表の挨拶では、先ず、喜寿を超えた同期が多数集い、ご夫人、ご遺族にも出席頂いたことに対し、感謝と歓迎の言葉が述べられた。更にご来賓の出席と如水会、新三木会からのご芳志に対し謝意を表した。「今大会が最後の周年大会となるが、これからも色々な機会に交流を続け、お互い健康に留意してピンピンコロリを目指そう！」と締め括った。

引き続き、ご来賓のお二人から祝辞を頂いた。始めに岡本如水会理事長から 55 周年同期会開催への祝意が述べられ、「この度、理事長に就任したので、如水会と母校の発展のために努力します」との力強いお言葉があった。続いて蓼沼一橋大学学長が「文科省の SGU には漏れたが、一橋はそれ以前から他大学を上回る海外留学の実績を挙げているので今後とも一層グローバル化に向かって力強く進みたい」と抱負を述べられた。

次に如水会・昭和 35 年卒の代議員の改選があり、幹事会の推薦通り茂木七左衛門君（W)、鈴木秀一君（P)、植松修三君（Ｌ）の３名が満場一致で選出された。

乾杯の前に植樹会の報告があった。故・岸田登君が音頭を取って再建した一橋植樹会は立派に運営されており、大学キャンパスは大変綺麗になっている。八藤植樹会会長は「昭和三五会」の植樹会への貢献に謝意を表し、今後も変わらぬ支援を要望された。ロビーでは植樹会によるＰＲ活動が行われた。

ここで漸く乾杯の時を迎え、植松共同実行委員長の“「55 年前の記憶」を一瞬にして蘇らせる

「魔法の会」に乾杯！“との発声で、一同の唱和がスターホールに響きわたった。
直ちに開宴となり、学生時代の話、病気の話、趣味の話など、それぞれのコーナーで話に花が咲き、忘れ得ぬ一時を過ごした。
あっという間に時が流れフィナーレを迎えた。
オーストラリアから参加した田村明君（U）夫妻及び鹿児島の玉川哲生君（P）夫妻からの近況報告の後、一橋大学応援部の男女部員による演舞が行われた。特に女子部員の溌剌とした舞を一同食い入るように見詰めて「本当に一橋の女子学生なのか？」という声も聞こえた。続いて皆で肩を組み応援部のリードで校歌「武蔵野深き」を斉唱し大会は大いに盛り上がった。
最後は岩松共同実行委員長が閉会の辞で、「在学中を入れ 60 年余のご厚誼を深謝します。これから 100 歳までまだ２０年ほどあるので、この間を悠々且つ快適に過ごしましょう！」と希望のメッセージを述べ、「一本締め」で 2 時間余の記念大会の幕を閉じた。
皆さんお元気で！
（杉山守記）